

同窓会だより

●発行

千葉県立船橋高等学校同窓会

千葉県船橋市東船橋6-1-1

〒273-0002 TEL 047-422-2188

ホームページ <http://homepage2.nifty.com/funaobog/>

●印刷 (株)サルト

姫路市北条宮の町172番地
TEL 079-284-1380

題字／小原天籟先生



母校はいま

「大空映して 寄せくる波の ひねもすたゆまぬ 努力の姿…」

平成十九年四月、思いもかけず母校である県立船橋高等学校に転勤になりました。船高の校歌を愛していた私は、新形式で約三十年ぶりに校歌を歌い、感慨無量でした。入学時のオリエンテーションで、綴帳が上がると同時に合唱部の校歌（アカペラ四部合唱）を聞いたときの感動は未だに忘れられません。

つい最近「合唱祭」があり、朝早くからあちらこちらで歌声が聞こえていました。当時は確か一年と二年各学年で予選があり、本選目指して毎日練習していました。二年のとき、予選突破がかなわず、直後の数学の授業でみんなとても落ち込んでいて先生に慰めてもらった記憶があります。三年は合唱好きの有志参加のため、人数も多く集まり、そのときも優勝は三年だったと思います。楽しみにしていた「合唱祭」ですが、残念ながら今は船橋市民文化ホールで一・二年のみの参加になっているため、事務職員の私は学校で仕事をしました。

「たちはな祭」は現在も六月に行われています。私は書道部でしたが、四月に入学してすぐに大きな作品を書き、裏打ち、表具、陳列まで自分たちでやりました。私は、何がなんだかわからないまま先輩のいうとおりにしていました。そのころは、正門前のテニスコートが船高のプールでした。（私たちは水着で道路を渡り水泳の授業を受けていましたが）「たちはな祭」の打ち上げで生徒会役員がプールに落とされるのも名物のひとつでした。

た。「たちはな祭」は毎年四千人を超える来場者でにぎやかに行われています。このように今も多く行事が行われ、部活動も多彩で、その活躍には目覚ましいものがあります。もちろん本分である学業にも熱心に取り組んでいます。

昨年度の卒業式の際、校長先生が「船高生の活動を支えているのは自由である」とおっしゃっていました。私も高校生活の三年間、自由ながらも何故かオブラートに包まれているような感覚です。それは、先生方が生徒の意思を重んじながら大きな力で見守ってくれていたからではないかと思っていました。そしてそれが今もお受け継がれていることこそ「伝統のなせる業」ではないでしょうか。

今の社会で、生徒たちは大変な境遇におかれています。その中で、悩み、苦しみ、また大いに楽しみながら高校生活を謳歌しています。先生方も、惜しみない愛情をそそいでくれています。生徒たちには、「自由」という意味を見極め、良き伝統を守り、どこの世界でも「船高生」であった三年間をどこかに感じながら、自分の役割を自覚し、果たしてくれることを願っています。

学校事務職員として二十七年間、いくつかの学校を経験し母校に戻れたことに感謝し、改めて母校を客観的に見た時に、先生方にとつても、生徒にとつても非常に恵まれた学校だと感じています。それに満足することなく、九十周年、百周年に向けてより一層の飛躍を願ってやみません。

寄稿 田中 祥子(旧・片山)

県立船橋高校 主査

平成十九年着任・昭和五十五年卒



会長挨拶

同窓会長 金子安雄
(昭和34年卒)

昨年8月の総会で小石税前会長からご推薦をいただき、88年の伝統ある県立船橋高等学校同窓会第10代会長を仰せつかりました。同窓会だよりの紙面をお借りし、就任のご挨拶を申し上げます。

さて、同窓会活動には色々な側面がありますが、中でも母校への支援と会員の相互交流という2つの大きな使命があると思っています。この使命を達成するため、とりわけ周年記念行事は、母校と同窓会が一体となって行う最大の行事と言えます。創立70周年、80周年の記念事業を経験させていただきましたが、学校が記念行事を行い、同窓会が物心両面でそれを支え、正に現役の皆さん、先生方、同窓生の力が結実し、節目の年に確かな足跡をのこすことができました。

そして、母校は平成22年に創立90周年を迎えます。既に10年ぶりとなる会員名簿作成事業に着手しておりますが、改めて、会員各位のお知恵とお力をお借りし、母校のために同窓会として何かできないものかとの思いを強くしておりますので、90周年に向けた同窓会の取組みにご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、今後は、6回を重ねた親睦ゴルフ大会のように、会員相互の友好・親睦をはかる場の提供や同窓会事務局の運営の充実等々、一人でも多くの皆さんに同窓会活動にご参加いただき、お力を頂戴し、より充実した同窓会活動を目指して参ります。

会長就任にあたり、改めて、皆さんのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



着任あいさつに代えて

校長 柴 寄 光 夫

同窓の皆様には、様々な御協力を賜っておりますことを御礼申し上げます。創立70周年及び80周年に植樹された橘も元気に育っています。そろそろ90周年についての検討組織立ち上げの時期と考えております。

さて、ここで、着任の挨拶に代えて、少し母校の現状を報告させていただきます。

まず、挨拶等しつかりした日常生活のうえで、授業を大切に、行事や部活動に全力で取り組みという良き伝統を大事にしています。その上で、県の進学指導重点校の指定を受け、進学実績の伸長を図っています。

また、専門的分野に対する興味・関心、学習意欲を高めるために、大学や研究機関等との連携を図り、サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業や高大連携事業等により、研究者招へい講座や大学出前授業を実施したり、千葉大等の授業を受講できるようにしています。

さらに、オーストラリア短期留学は10回目となり、本年夏には、ドイツのオーケストラとの合同演奏会を実施し、約60名の団員が生徒宅にホームステイしました。来年度は、単位制・2学期制の導入を予定しています。

母校においては、良き伝統を大事にしながら、必要なものは大胆に取り入れて、生徒、教職員共ががんばっています。



伝統と“軽み”

全日制教頭 小野 静 枝

「奥の細道」の旅で芭蕉は古くから詠まれた歌枕を訪ね、新たな価値を見出そうとした。旅を終え、推敲に推敲を重ね、新風開発のための苦難の後に「軽み」に到達した過程を俳諧紀行文の形で表現した。

俳諧は常に新しさを求め、表現を工夫する文芸なのだが、西行・宗祇・杜甫・李白など偉大な詩人たちが残した詩の伝統を断ち切ることはできない。多くの古典から得た知識があればこそ、時空を越えて感動的な表現が生まれる。しかし、伝統に縛られれば、どうしても身構えてしまい、表現が堅苦しくなったり、ありのままの心情が伝わりにくくなる。そこで、晩年の芭蕉は、自然体で日常生活の中に詩情を探り、心のリズムが詩の言葉になるような「軽み」の方向を目指し模索した。

「伝統を守る」というと、身構えてしまい、格式張るのが世の常であるが、先人達の精神をいかに引き継ぐかが需要だ。先人達の思いを心に留め、今を生きる自分たちはどうしたら未来に向けてその思いを繋いでいけるのかを考えたい。俳諧の芸術としての永遠性を求めた芭蕉が不断の努力の末に「軽み」に到達したことを思うと、現実を見据え、余計なものに囚われず、自然体でありたいと思う。

平成二十二年

『春の同窓会』

ご案内

実行委員長 矢野 光正

(昭和42年卒)

還暦を迎える同窓生が幹事学年となり開催する「春の同窓会」は、毎年2月11日、建国記念の日が開催され、毎回300人以上の同窓生が参加する同窓会最大の行事です。

今回、第15回「節目の開催となる平成21年の「春の同窓会」で実行委員の大役を務めますのは、我々第19回、昭和42年の卒業生です。春の同窓会は、回を重ねるごとに参加者が増え、最近では会場に溢れんばかりの同窓生が集まり、3年間機会を並べて学んだ友やお世話になった恩師との再会、各界で活躍されている先輩や後輩との思わぬ出会い等々、2時間30分があつという間の楽しい催しです。また、卒業10、20、30周年といった節目の記念の年に改めて同期生が集まり、ここから同期会が始められたということもあるそうです。

何事にも一丸となって取り組んできた第19回生。今回の同窓会にも各クラスからなる幹事役が数回にわたり実行委員会を開き、ブレ同期会を楽しみながら満を持しております。同窓会は同期のFBS福岡放送の斉藤恒雄君が当たる予定で、アトラクションは創部50年をこえる早稲田大学ニューオーリンズジャズクラブのポピュラーなデキシーランドジャズの生演奏、また、船高合唱部OBによるコーラスと、例年とは一味違う演出をご用意しております。

第19回卒業生が力を併せて実行委員を務めてまいりますので、是非、皆さんお誘い合わせにご参加いただき、懐かしき母校への思いを語り合いたいです。ご参加お待ち申し上げます。

恩師

探訪

躍動の時代と共に

藤田 杏樹 先生

三十年以上も昔の思い出は、当時生活を共にした人以外には看過されがちですが、私の体験を叙事的に表現します。船橋高校に赴任したのは昭和三十六年四月、他校への転出が同五十一年三月でしたので、十五年程勤務したことになります。

初年は定時制、初めての経験でした。HRの生徒層は勤務場所の職種雑多、年齢は四十二歳から十六歳までと差が大きく中には習志野自衛隊員や集団登校の市川の日本毛織の女工さんともいました。クラブ顧問は野球部。給食は珍しく、味が良く楽しみな時間でした。

次年度全日制に転籍、前年から週二日兼任講師で出ていましたので違和感はありませんでした。指示・強制がなく扱所は自分の浅い経験と判断のみの全く自由、大人の世界、生徒は自由闊達学校全体が前進の雰囲気でした。それが多様な学校行事、校外活動に順応し、進学に舵を取った授業の充実にも応えられたのだと思えます。

「よせ」事件であの飛行機の乗客に父親がいたHRの生徒、転校生で成績抜群、三島由紀夫割腹の折、同行した二年時の生徒は、卒業後のクラス会で杯を酌み交わしただけに衝撃でした。高校改革運動にも他校に遅れることなく、ヘルメット・角棒姿の示威行進、校門脇に天幕内外呼応の風景もありました。東大入試のなかった年かどうかは曖昧。文化祭展示物(日中戦争南京虐殺写真)を撤去させたことでの生徒総会、夜の職員会議、それらが大概なく終息したこと等。修学旅行に京都の宿舎を基点とした「班別自由行動」の企画と実践を生徒の手で、そして成功は千葉県高校の修学旅行形式の嚆矢となった自主活動は立派でした。他校の先生に説明した記憶があります。

国語科が文部省の実験学校に指名されて、三

年間忙しい毎日でしたが、以後の学習指導に役立つことは否めないことでした。唯、校歌の歌詞の一部改訂の声が出て、作詞家に要請改変されたことに関しては、国語の教師として阻止できなかったという力不足を痛感しました。

定時制野球部の監督は一年でしたが、前年度全国定通大会(三位)には及びませんが県大会決勝で長生高に敗れる奮闘ぶりを見せました。ここから私の高校野球が始まります。以来野球部を離れることができませんでした。部長時代監督に恵まれ、県高野連の役員の時、銚子商(四十九年)習志野高(五十年)全国連覇の県大会で、奇しくも準々決勝で両校と対戦という誉を残しました。

教師としての成長期に船高に遭遇したこと、環境・多忙・生徒に恵まれ、それ以後を決定づけられました。「忙しく動き生きる」は人間を人間たらしめる様に思えます。人生観の一端を植えつけられたとも言えるでしょう。

藤田 杏樹 先生

昭和36年から昭和51年まで
国語科在籍 春の同窓会幹事学年担任も務められた
(昭和42年卒)のクラス



写真は昭和48年卒同期会(平成20年8月)でご挨拶される先生

創立90周年版同窓会名簿の発行について

(平成21年11月下旬発行予定)

同窓会では、母校創立90周年を記念して、同窓会名簿を発刊いたします。今回の名簿発行は、前回創立80周年版として発行後、10年が経過し、住所の変更等も多く、また、新たに同窓生となった「新会員」も多く、改訂・増補版の発行へのご要望も多く寄せられておりますので、同窓会としては、この節目の年には是非とも同窓会名簿を発行してまいりたいと企画いたしました。名簿の整備は、同窓会活動に必要不可欠なもので、同窓生同士の交流や情報交換に役立つものと思っております。

今回の名簿の発行にあたっては、会員個々に掲載希望の有無や掲載内容へのご同意をいただき、個人情報保護には万全を期して参ります。平成21年2月より「会員名簿作成用調査ハガキ」をお送りいたします。正確な情報を名簿に反映するため、よく内容をご確認のうえ、ご返信ください。また、ご希望のうえ、ご返信ください。なお、名簿の作成につきましては、前回同様、㈱サフトに委託をしております。何卒、ご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



平成3年4月に入学。平成6年3月に卒業した早川大輔です。高校を卒業して早いもので15年となります。その後は立教大学を卒業。ホンダ技研を経てプロ野球のオリックスに入団。現在は地元・千葉の千葉ロッテマリーンズで外野手をしています。

まずは当時の野球部の話から書かせていただきます。朝練はなかったけれど、父母会が作ってくれた打撃ゲージで打つために6時半頃に自宅を出て、7時半頃から自主練習をしていたのをよく覚えてます。私が当時住んでいた新浦安から京葉線で西船橋を経由して東船橋まで行くのですが、当時は本数が少なかったこともあり、1本でも乗り過ぎたら遅刻。そんな時は南船橋で降りて学校まで15分くらいかけてダッシュで登校したのがいい思い出です。冬には自宅から学校まで自転車通学したこともあります。雑誌などでプロ野球選手の高校時代の話として学校まで走って歩いて下半身が強化されたなどのエ

ピソードを読んで、刺激を受けたのがキツカケです。1時間以上もかけて通いましたが、1カ月ぐらいで残念ながら挫折しました。やっぱり車の通りが多いので怖いし、しんどい。やろうとしたのはよかつたけど、持ちませんでした。これは今となっては笑い話にはなりません。

野球部の一番の思い出はグラウンドが特徴的だったこと。レフトは100メートルほどあるのですがライトは70メートルぐらいいしかならない。そのフェンス部分は土手になっていて、いつの間にか土手を登ってボールをキャッチすることがうまくなったりしました。チームには土手の名手と呼ばれる外野手がいて、試合でもよくホームラン性の当たりを取ってしまう。だから、学校に相手高校を招いての練習試合を行う時などは勝率がよかつたのが印象的です。相手高校はこの特徴的なライトに戸惑うけど、こっちは完全に特徴を把握しているから、お手のもの。相手チームからしてみればあまりこちらで試合がしたくなかつたことでしょう。冬のランニングメニューが厳しかったのもよく覚えてます。300メートルを全力で走って、ちよつと休憩する。その繰り返しを10本ほど行う練習があつたのですが、これがみんな嫌いでした。一定のタイムを切れないかつたら罰走もあつて、3日に1度ほどのこの練習をするので、本当に憂鬱でした。屋敷からその練習を考えると体調が悪く感じたりしました。あとは、ライト側の土手で行う腹筋、背筋の基本練習も厳しかったです。

2人1組となつて黙々と腹筋、背筋を鍛える練習。ただ、この練習をしておかげで今、その部分は他の人と比べて随分強いような気がします。腰を痛めることがないのも高校時代のこの練習のおかげかなと思います。それと砂利道で行つたタイヤを引っ張る練習も辛かつたです。

残念ながら目標としていた甲子園には届かなかつたのですが、本当に充実した部活動でした。3年夏の予選はシード校ということで2回戦からの出場。いきなり負けてしまいました。が、チームメイトと目標を持って過ごした日々は私にとってその後の人生の自信となりました。

部活動を引退してからは、気持ちを切り替えて受験勉強に力を入れました。第1希望は早稲田大学だったので、とにかく東京六大学で野球がしたい。その気持ちで勉強に打ち込みました。授業が終わつたら図書室で勉強。そして家に帰つたら勉強という流れで、なんとか志望校の一つであつた立教大学に合格することが出来ました。とにかく大学で野球がしたいというモチベーションを持って取り組んだことが良い結果に結びついたのでと思います。後輩の皆様も、ただ漠然と大学に入りたいたいという思いで受験勉強をするのではなく、どの大学でなにをしたいのかという目標を持って



受験勉強に取り組んで欲しいと思います。そうしたい方がいい結果に繋がるのではないのでしょうか。学園生活での思い出としては船橋総合運動公園で行う秋の陸上大会はいい思い出です。クラス対抗で本当に盛り上がりつていました。記憶は曖昧なのですが、確か三段飛びの種目で当時の船橋高校記録を打ち立てたと思います。13メートル48ぐらいいかつたと思います。今でも私の誇りですが、たぶん今は後輩の誰かに記録は破られているのではないのでしょうか。あとは花形種目であるリレー。これは本当に盛り上がりましたね。勝つた記憶はないのですが、アンカーとしてプレッシャーと戦いながら走つた記憶があります。苦い思い出としては3年の一学期で物理で0点を取つたことでした。我ながら0点とは凄いなあと思いました。中途半端に10点とかではなく0点。もちろん、補講や再試験を受けて、なんとかしましたが、これは痛烈な印象が今でもあります。

最後には後輩の皆様が先輩として厚かましくもアドバイスさせていただきます。遊びたいかもしれないけど、なにか目標を持って、夢を持って3年間を過ごしてください。それは頑張りなくても叶わないかもしれないけど、目標に向かって努力したことは必ずいつの日にか役に立ちます。社会に入つて、なにか問題に突き当たつた時、切り抜ける方法を身につけることが出来ると思います。



だから、一生懸命、なにか目標に向かって努力してください。それと高校時代の友人は一生の友となります。私も一年に一回、野球部のメンバーと食事します。高校時代の思い出話は何度しても本当に楽しいです。そしてなによりみんないろいろな分野の第一線で活躍しているのが本当にいい刺激になります。私も彼らに負けないように野球で頑張ろうという気持ちがあります。

それでは最後にお願ひを一つ。ぜひ千葉マリンスターダムに足を運んでいただき、地元・千葉のチームを応援してください。私を見つけたら声をかけて発破をかけてください。宜しくお願ひします。

船高の歴史(一五)

船高にかかわる歌人たち

元県立千葉高等学校教諭

小川信雄

(一九六三年卒)

船橋高校の教職員や生徒・卒業生にはそれぞれの分野で優れた業績を遺す人々が多い。今回は戦時中から戦後に県内短歌の世界で著名であった神原克重、渡辺捷八郎、川久保俊一の三歌人を取りあげる。戦時体制のなか一九四三(昭和一八)年六月一日、当時、五二歳であった神原克重は船橋市立船橋中学校長として赴任した。神原は一八九二(明治二五)年一月、千葉県海上郡飯岡町に生まれた。父は玉崎神社の神宮であった。中学校卒業後の一九〇二(明治三五)年四月に東京師範学校予科(のち東京文理大学、東京教育大学となり、現在は筑波大学)に入学し、同校本科国語漢文部を一九一六(大正五)年三月に卒業した。その後岐阜県立女子師範学校(現岐阜大学教育学部)、栃木県立女子師範学校(現宇都宮大学教育学部)、千葉県立佐倉高等学校長、同東葛飾中学校長などを勤め、船橋中学校校長となった。この間、中国東北部に日本の傀儡国家として登場した満州国にわたり、満蒙開拓の農業移民の千振村やハルビン等を視察している。

中学校時代から作歌をしていたが、高等師範入学後もつづけ、一九一七(大正六)に若山牧水(一八八五〜一九二八年、自然主義歌人として著名で酒と旅を好み、感傷的な旅中の詠歌にすぐれ、歌誌『創作』を主宰する)の創作社にはいり、牧水に師事し歌道に励んだ。

一九三〇(昭和五)年に初めての歌集『ぬほり社』を刊行した。『創作』の牧水追悼号(同年二月)の追悼歌には

さらさらと波かがよへり指して
君が語りし海にやあらぬ

という歌を載せている。

一九四四(昭和一九)年四月に県立となった船橋中学校の校長時代には私立船橋中学校時代の教師である渡辺捷八郎に短歌を指導した。その歌は平明で格調の高いことで定評があったとされている。

昨年『船高の歴史(一四)』に紹介した『昭和一九年度 船橋中学校職員会議録』八月二日に「学校兵官化ナル精神ヲ進ミタイ；学校長ノ方針ニ万ヲ一ニ統一ス」と軍国主義を鼓吹したのは、歌人であり、ここに取り上げている神原である。戦時中に大政翼賛会船橋支部の幹部役員(大政翼賛会とは第二次近衛文相内閣の一九四〇年、ドイツ・ファシズムにならおうとした新体制運動の結果、結成された軍国主義による国民統制組織である。各政党は解散して、この組織に合流した)にもなっている。

「戦争責任」に関連していえば、フアナチックな軍国主義の横溢するなかで、自然主義の歌人もそうした波に同調せざるを得なかったようである。その同調は積極的であったのか、消極的であったのか、時代状況としてはやむをえなかったものとも思える。しかし、積極的か消極的かの違いは「五十歩百歩」ともいえるもの、実はその五十歩の差は大きい。このことは難しい問題である。神原は戦後の一九二七〜四四年間の歌集『玉樟』(一九二七〜四四年間の六〇一首を自選)を創作社から刊行した際に「戦時詠(歌)二五〇首を割愛

しているという。

神原は戦後も船橋中学校長の地位にあり新制高校出発にあたって、一九四八(昭和二三)年三月に県立船橋高等学校長となったが、同年五月千葉県視学、六月に県学務課長となり、一九五〇(昭和二五)年四月に敬愛短期大学の教員となった。この間に神原は一九四六(昭和二一)年六月に千葉県の一九四六(昭和二一)年六月から一九五二(昭和二七)年一月一〇日(昭和四一)年一月二八日に死去した。

一九四五(昭和二〇)年一月にGHQ(日本占領)をした連合国軍総司令部のことは日本政府に、教員及教育関係者ノ調査、除外、思想ニ関スル件ヲ指令、「軍国主義的思想、過激ナル国家主義的思想ヲ持ツ者トシテ明力ニ知ラレテキル者」に連合国軍の政策に明らかな反対意見をもつ者、復員軍人の教職への就職を禁止する命令をして文部省にその調査を命じた。翌年四月に民主教育に不適格な教員が全国で六五〇名追放され、五月に教職員適格審査の勅令が公布された。軍国主義教員の排除を目的とする審査が始まった。そして二〇万人の審査がおこなわれ、一九四七(昭和二三)年八月にGHQは追放者の総計は二一万人と発表したが、千葉県教育界の状況も含めて、その実態はあまり研究されていない。具体的なことはよくわかっていない。

千葉県教職員適格審査委員となった神原について「彼の広い識見と公平な判断力によって、不適格の烙印がらまぬがれた多数の教員があった」(田邊彌太郎『房総歌人伝』八九三頁)という評価がある。「県教職員適格審査委員会折々」と題して

ひそかにも期したることのなしとせ
ず貫き遂げむ一ことだけは

かれもまた国を憂ふる心より言挙げ
するは信ぜむとする

の二首がある。軍国主義を鼓吹し、大政翼賛会船橋支部役員を勤めた経歴からいえば、神原の審査委員の就任自体が無理なことだったのではないかろうか。

戦後、神原は千葉県歌人クラブの代表幹事として県短歌界にも貢献したが、歌人であり、船橋市教育委員であったことから、船橋市立船橋高等学校校歌をはじめとして市内の中学校三校、小学校九校の校歌を作詞するという業績があることも記憶されることである。

船橋町本町に生まれた渡辺捷八郎(一九〇五年二月〜六一年七月)は東京の中央商業学校卒業後、早稲田大学専門部商科に入学して、一九二八(昭和三)年三月に卒業した。その間、窪田空穂(一八七七〜一九六七、早稲田大学教授。客観性を重んじて生活実感を歌い、抒情性に富む歌をのこした。国文学者でもある)の指導をうけた。一九三七(昭和一二)年四月に私立船橋中学校の教師となり、戦後の県立船橋高校時代の一九六一(昭和三六)年三月まで勤務して退職した。その間、神原克重の指導・添削をうけ、一九四三年に創作社にはいり、神原主宰の『たまくす』(玉樟)創刊に参画し同人となった。退職した年の九月七日に腎臓病で死去した。『たまくす』の同人川久保俊一によれば渡辺は温厚篤実であつて事に当り忠実そのものであつた。不満があつても顔に出さず、行いの人をさとすという風であつた。(田邊前掲書一〇八六頁)。

『渡辺捷八郎遺歌集』には

前列に居眠る夜間学生を寝かして置
きて我れ板書す

小さく小さく己れを持して尚我の世
にあることの消しがたきもの

という歌があり、川久保俊一の評するところの人物であつた。川久保俊一(一九〇六年一月〜一九七一年六月)は長野県松本市に生まれ、金沢医学専門学校卒業後、慶応大学医学部にて医学博士の学位を取得して、船橋市宮本町で内科・小児科医院を経営し、船橋高校の校医をも勤めていた。歌は一九四六年に創作社にはいり、一九四九(昭和二四)年、宮中における年始の歌会始めに入選した。神原らと交わり、『玉樟』を創刊し、渡辺の病死後、その発行所を自宅に移した。その歌は叙情的かつ清らかな印象をあたえる。

庭隅の柘榴は落葉せるあとにくちそ
めし実の一群のこる

葉さきよりもみちしそめし南天の立
房の実いまだ青しも

一九七一年六月四日に死去した。

参考文献・田邊彌太郎『房総歌人伝 作品と系譜』(一九八九年一月、単独巻)。『船橋市史 現代編 上』(一九六五年三月、船橋市)。海後宗臣監修『日本近代教育史事典』(一九七一年一月、平凡社)等。なお文中の敬称は略した。

平成19年度 事業報告書

平成19年度の決算では、一般会計の団体支出金が当初予算に比べ約倍増、平成18年度決算と比べても約50%増と際立っており、支出の約半分を占めております。これは、母校のクラブ活動等への補助金であり、関東大会や全国大会へ出場するクラブ等へ支出するもので、全日制・定時制の運動部や放送委員会等の文化系部活動が大活躍し、素晴らしい成績を残した結果となっております。母校の活躍は「母校の現況」で詳しく紹介して

特別会計では「春の同窓会」への出席が年々増加し、今回も出席者は前年に比べ1割増となっております。このため、剰余金が前年度の倍以上となっております。
この他、式典でステージを飾るオブジェの復元補修費を学校基金として計上し、元通りのオブジェが出来上がり、入学式、卒業式のステージを飾っています。
なお、毎年協力を頂いております事業協力金は主にこの同窓会だより発行に当てられておりますが、残念なことに繰越金が先細りとなっております。会員の皆様には同窓会事業への一層のご理解とご協力をお願いする次第です。

平成19年度一般会計収支決算報告書

Table with 5 columns: 科目, 19年度予算, 19年度決算, 18年度決算, 備考. Rows include 繰越金, 会費収入, 預かり金, 雑収入, 合計.

Table with 5 columns: 科目, 19年度予算, 19年度決算, 18年度決算, 備考. Rows include 会議費, 役員会, 通信維持費, 印刷費, 消耗品費, 人件費, 後援費, 団体支出金, 卒業記念費, 育英金, 組織企画費, 交際費, 車庫料, 予備費, 次期繰越金, 合計.

Table with 2 columns: 科目, 金額. Rows include 一般会計積立金, 積立金利息, 合計, 自動車1台, 同窓会書庫1基.

平成19年度特別会計収支決算報告書

特別会計1 春の同窓会基金

Table with 5 columns: 科目, 19年度予算, 19年度決算, 18年度決算, 備考. Rows include 前期繰越金, 会費等収入, 利息, 合計.

Table with 5 columns: 科目, 19年度予算, 19年度決算, 18年度決算, 備考. Rows include 宴会費, 回アトラクション代, 通信費, 幹事学年打合せ費, 運営費, 理事会会議費, 特別会計2への繰出, 次期繰越金, 合計.

特別会計2 事業関係

Table with 5 columns: 科目, 19年度予算, 19年度決算, 18年度決算, 備考. Rows include 前期繰越金, 事業協力金, 会費名簿販売代金, 秋の同窓会より, 特別会計1よりの繰入, 利息, 合計.

Table with 5 columns: 科目, 19年度予算, 19年度決算, 18年度決算, 備考. Rows include 同窓会だより発行, 振込み手数料, 通信費, 名簿管理費, 理事会会議費, ホームページ関連, 特別奨励金・朝課金, 雑費, 学校寄付金, 秋の同窓会奨励金, 予備費, 次期繰越金, 合計.

母校の現況

●全日制の部活動

- 運動系部活動の番号の区分
①19年度新人大会(県大会)
②20年度関東大会予選
③20年度県高校総体(県大会)
④その他

■運動系部活動

- 野球
①秋季大会 県大会ベスト16
②春季大会 県大会二回戦
③選手権大会 県大会三回戦
陸上競技
①男子三千m障害 1位 木村 侑
②男子三段跳び 2位 木野 真器
③女子四〇〇m 2位 小嶋紗也香

- 男子一〇〇m 6位 木野 真器
男子棒高跳び 5位 小嶋紗也香
女子二〇〇m 5位 山本 菜月
女子七種競技 8位 木野 真器
男子一〇〇〇m 5位 木野 真器
男子棒高跳び 3位 木野 真器

●女子部活動

- 水泳
①県大会 二回戦(ベスト32)
②県大会 二回戦(ベスト32)
③県大会 決勝トーナメント一回戦(ベスト16)
④高校選手権千葉県大会 2次予選(ベスト32)

柔道

- ①県大会 一回戦(男子)
②県大会 二回戦(男子)
③県大会ベスト16(女子)
④県大会ベスト32(男子)
⑤県大会ベスト16(女子)

- 剣道
①男子団体 県大会一回戦
②男子団体 県大会一回戦
③男子団体 県大会一回戦
④船橋市民学生剣道大会 優勝

バスケットボール男子

- ①県大会 二回戦
②県大会 ベスト32
③県大会 ベスト32

バスケットボール女子

- ①県大会 一回戦
②県大会 一回戦
③県大会 一回戦

- バレーボール男子
①県大会 ベスト16
②県大会 ベスト16
③地区予選敗退
④春季船橋市民大会 二回戦
バレーボール女子
①女子団体 県大会一回戦
②女子団体 県大会一回戦
③女子D1組S1名県大会出場
④学年別大会

卓球

- ①男子団体 県大会出場
②男子団体 県大会出場
③男子団体 県大会出場
④県公立高校大会 個人D5組S5名出場

女子団体

- ①男子団体 県大会一回戦
②女子団体 県大会一回戦
③女子D1組S1名県大会出場
④学年別大会

- アーチェリー
①男子団体 準優勝
②女子団体 3位
③男子個人 岡 美穂人
④女子個人 佐藤ひかり

- ②男子団体 4位 柿林 美里
- 女子団体 8位
- ③男子団体 3位
- 女子団体 5位
- ④JOCジュニアオリンピック出場
- ワンダーフォーゲル 佐藤ひかり
- ボウリング大会 団体 4位
- 1年個人の部 2位
- 2年個人の部 6位
- 春山合宿・夏山合宿・秋山合宿・スキー合宿実施
- ダンス同好会 「たちはな祭」にて発表
- 文化系部活動
- NHK全国学校音楽コンクール 千葉県大会 銀賞
- 千葉県合唱コンクール 金賞
- 関東合唱コンクール 銀賞
- オーケストラ
- 第32回定期演奏会
- 全国高等学校選抜オーケストラフェスタ
- 全国学校音楽コンクール
- 千葉県大会銀賞
- 県立船橋地区音楽会
- 東船橋駅クリスマスコンサート
- 将棋
- 千葉県高文連将棋大会 優勝 坂野 逸人
- 6位 山下栄一郎
- 7位 岡村 謙介
- 全国高文連将棋新人大会
- 決勝トーナメント出場
- 全国高校将棋選手権大会
- 男子団体戦 準優勝
- 男子個人戦 優勝
- 坂野 逸人
- (全国高校将棋選手権出場)
- 坂野 逸人
- 6位 岡村 謙介
- 7位 田上 慎平
- 高校竜王戦千葉県予選
- 5位 坂野 逸人
- 美術
- 全国高等学校総合文化祭出品
- 岡村 花(油彩)
- (県代表)
- 坂本 薫(日本画)
- 千葉県高校総合文化祭美術工芸
- 船橋地区高校美術工芸作品展出品
- 「たちはな祭」
- 陶芸
- 千葉県高校総合文化祭美術工芸
- 作品展作品出品
- 船橋地区高校美術工芸作品展出品
- 「たちはな祭」
- 書道
- 千葉県小中高書道大会
- 県議会議員賞 家泉 光一
- 千葉日報社賞 野村 万葉
- 丸山 葉子
- 地学
- 冬季合宿(内浦山県民の森)
- 夏季合宿(長野県東御市)
- 千葉県大学理科研究発表会
- 鐵道研究
- 「たちはな祭」にて鐵道模型の
- 実演と駅弁販売
- 機関誌「All Aboard」の発行
- (年4回)
- 国立歴史民俗博物館にて
- 鐵道模型の進行実演
- 歴史研究
- 千葉県高校歴史研究発表大会
- 参加
- 映画鑑賞
- 「たちはな祭」にて
- 「ONEMAN第2」発行
- ジャズバンド同好会
- 千葉県科大イベント参加
- マリスタジウムにて演奏
- 文化祭・合唱祭参加
- その他
- 放送委員会
- NHK杯全国放送コンテスト
- 千葉県大会
- アナウンス部門 最優秀賞
- 朗読部門 最優秀賞
- 創作テレビドラマ部門 最優秀賞
- ラジオドキュメント部門 優秀賞
- 全国大会
- アナウンス部門 優秀賞
- 朗読部門 優秀賞
- 創作テレビドラマ部門 入選
- ラジオドキュメント部門 製作奨励賞
- 第32回全国高等学校総合文化祭
- (群馬大会)
- 朗読部門・ビデオメッセージ 部門参加
- 第5回関東地区高校放送コンクール
- アナウンス 1名参加
- 定時制の部活動●
- 千葉県高等学校定時制体育大会
- 陸上競技
- 男子100m 3位 山内 航
- 女子100m 優勝 安藤佳与里
- 女子100m 3位 日暮 美結
- 女子200m 2位 日暮 美結
- 女子400m 3位 竹原 早紀
- 女子走幅跳 2位 安藤佳与里
- 女子走幅跳 3位 日暮 美結
- 女子砲丸投げ 優勝 安藤佳与里
- 女子学校別総合優勝
- サッカー
- バスケットボール男子 3位
- バスケットボール男子 優勝
- バレーボール男子 3位
- 軟式野球 2回戦
- 剣道
- 女子個人 3位 本田未來
- ソフトテニス 優勝 高橋・吉田組
- 女子個人 3位 兼子・長瀬組
- 男子個人 3位 吉村・鈴木組
- バドミントン 3位 山本 幹一
- 男子個人
- 千葉県高等学校総合文化祭
- 合同写真展
- 団体賞 最優秀校賞受賞
- 個人賞 金賞 日暮美結
- 全国大会の記録
- 全国高等学校定時制通信制大会
- 陸上競技
- 女子砲丸投げ 4位 安藤佳与里
- 男子100m 出場
- バスケットボール男子 3回戦進出
- 剣道
- 男女各1名県代表チームとして出場
- ソフトテニス 個人戦 3組出場
- バドミントン 個人戦 男子1名出場
- 全国高等学校総合文化祭出品
- (県代表)
- 森田ジュリオトミオ

バレーボール部創部60周年記念祝賀会開催

平成19年11月24日、バレーボール部創部60周年記念祝賀会を開催しました。川名校長先生(昨年度)と歴代顧問の3先生をお招きし、OB・OGは60名が出席、盛大な会となりました。また、60周年を記念して、「60周年記念誌」を発刊し、母校へは部旗2旗を贈呈させていただきました。

母校バレー部は昭和22年に創部され、その年、バレー経験者が1名という状況にも関わらず、県下に敵なし、金沢国体への出場を果たしました。爾来、船高バレー部は全国にその名を轟かせました。しかし、バレー部のおかれた状況は、屋外コート作り、練習場探し(当時体育館がなかった)等々、厳しいものがあり、草創期の先輩方は大変苦労されました。しかも、顧問の先生がおらず、当時佐原高女に勤務されていた福地先生にコーチを引受けて

いただきました。やがて、先生は船高に着任され、バレー部の技術的な基盤を築かれました。

その後昭和30年、37年インターハイ連続出場、38、39年県総体優勝、40、44年国体出場、輝ける歴史は枚挙に遑がありません。

60年間で在籍部員は600余名を数えますが、この記念行事をきつかけに、船高バレー部OB・OG会として現役バレー部の一層の活躍を支援する決意を新たにしております。バレー部の健闘を祈念します。



県高校総文祭第41回合同写真展で最優秀校賞を受賞して

定時制の課程写真部 森田 ジュリオトミオ(3年次在学)

廃部となっていた定時制の「写真部」が3年前に「写真同好会」として再出発しました。せっかくなら私たち定時制生徒の生活や視点、頑張りなど作品を通じて全日制の皆さんにも見ていただきたいと考え、全日制高校写真部の県大会である「合同写真展」に出品させていただくことにしました。そして、3回目の出品に当たる今年9月の「第41回合同写真展」では10名が36作品を出品、「入選」3点、「金賞」1点に加え、「最優秀校賞」をいただくことができました。参加校51校中定時制は私たちだけであり、このことは私たちに驚きをもたらしたとともに日頃の努力を認めてもらったのだという喜びにもなりました。しかし、顧問の先生は、「君たちは今ようやく飛び立ち、他の写真部の生徒さんたちと肩を並べられるようになります。でも、本当の意味での出発はここからです。これからは君たち自

身で前向きに活動してゆかなければならないし、そういった意味ではこれからが本当にたいへんです。」と言われました。なるほど、その通りです。私たちはこれからもさまざまな視点からいろいろな事象を捉え、それらを作品として発表していこうと思います。同好会発足時から恒例となっている写真展「篝火」も今年で第3回目を迎えます。本年も12月21日より28日まで銀座二コンミニギャラリーで開催いたします。お忙しい時期ですが、どうぞ来場いただきご意見をいただければと思います。



おたより彼れ是れ

伊藤 鷹一 (昭和28年卒)
新社会党書記長、横堀正一氏 (昭和28年卒) が平成20年1月14日逝去されました。彼は、昭和41年から昭和59年まで母校で英語の教鞭を執られ、千葉県高等学校教職員組合でも活躍されました。訃報に接し、改めて彼の教育や労働分野での理論と実践を顧みると、その足跡が如何に大きかつたかを痛感しました。

鈴木 仁 (昭和27年卒)
学徒動員 (歴史14) の項興味深く読みました。記事中、市川製鐵とあるのは、市川の東京製鐵所ではありませんか？兄が動員されて居りました。右記会社は現在も残っているかも知れません。

藤下 晴子 (昭和38年卒)
同窓会だより第20号の恩師探訪で浅見先生のことが載っていました。私も書道部員でした。私が書いたものを見て先生がほほえんでいたこと、先生のお書きになる姿を買って見ます。先生は、もう、お忘れになっています。先生は、先生のお書きになる姿を買って見ます。先生は、先生のお書きになる姿を買って見ます。

田島 徳子 (昭和28年卒)
長崎で、タウン情報誌「ザ・ながさき」を発行しています。74才になった今も現役バリバリです。

岩崎 永夫 (昭和40年卒)
船橋市内の義務教育教員を勤め、退職しました。現職時代、校長会等で話題となるのは、どうしても「市船」の活躍でした。しかし、私の心の中で、いつも気になっていたのは、「県船」の活躍です。新聞報道などでその名を見つけたら、嬉しさや喜びがあります。

小西 みつ子 (昭和41年卒)
後輩の皆様が頑張っておっしゃっているの、先日も高校名を訊かれて、「船高」と答えると、「オー！」と言われました。今春 (2008)、一月に介護福祉士の国家試験に挑戦します。二女も社会人となり節目の年となります。

山口 佐代子 (旧職員)
趣味の詩吟舞を細々とおぼろめずに20年、1週1回夜間公民館で小さな仲間と先生のご指導のもと続けており元気でおります。たまに悩み相談の人の聞き役、アドバイスをしています。

小井土 清 (昭和25年卒)
同窓会だより第20号・船橋高校の歴史を拝読した。勤労動員で、下級生の1、2年生も参加した。記事が無い事が残念だ。2年生は第15号の片隅に記載されたが、恩師に聞く所によると戦艦直後通達により書類は三日三晩かけて焼却したとの事で記録も無いので無理も無い事だ。経験者存命中に記録を学校に保存して欲しい。

伊藤 光子 (昭和30年卒)
毎回「同窓会だより」を懐かしく拝読しています。今回は「母校はいま」とわが同窓が特に楽しかったです。不易流行。社会や教育が大きく変わる中で、私は、船橋高校の「不易」を守りたいの山田美奈子先生の情熱に乾杯!!

加藤 孝 (旧職員)
同窓会だより (第20号) 嬉しく拝見。校長先生の「ムツ釣り」と題するコメント。岩場でサヨリ釣りの難しさを味わった私の経験と通じるところあり、世相に対する警告啓示と受け止め思わずほくそ笑みしました。

平間 良子 (昭和55年卒)
因みに川名先生と私は同郷。お互い近頃の海、釣場を知り尽くしております。

小林 宏 (昭和21年卒)
船橋高校の歴史 (14) の小川信雄氏の勤労動員の一文についてはまさに、市川製鐵 (東京製鐵と記憶していますが) 当時を写し留めた一文でした。60数年前のことです。当時終戦をはさんで昭和17年に入学した者は三次に亘って卒業し、卒業年度での同窓会は行えない為、17年 (大正) 会と称して同窓会を開催しています。

塚原 優子 (昭和53年卒)
今年3月息子と共船を卒業。大学生となりいろいろな事に挑戦しています。同窓会だよりを2人で読ませて頂きました。浅見先生は書道クラブでお世話になりました。お元気で御活躍と知りとても嬉しいです。

今泉 幸久 (昭和47年卒)
毎年3月に体操部のOB会を開催しています。顧問だった美術の芝草一先生、体育の青木郁夫先生が毎回参加して下さい、旧交を温めていきます。

吉浪 文子 (昭和28年卒)
同窓会だより楽しく読ませていただいています。いまだに夏の高校野球応援に行っています。勝った校歌を唱うのは最高です。うーんと若い後輩とハイタッチしたこともあります。

保澤 與 (昭和20年卒)
同窓会だより20号で船橋高校の歴史 (14) で学徒動員と学校教育の停止を読み当時旧中5年生で実際に学徒動員に携った者として63年前の暗く苦しかった世相を感無量な気持ちで想い出しながら読みました。

山浦 紀子 (平成4年卒)
昨年の会報で、当時のパレーボール部仲間が船高の先生になり、顧問になつていとう事実を知り、嬉しく本人に久びさにお手紙を書きました。メールもない時代だったので卒業と同時に連絡が取れなくなった友人も多々。こういった会報で近況を知ることができ、嬉しんでいます。

長濱 由美子
千葉ロッテの早川選手の活躍をみて、母校を思い出します。

高藤 賢世子 (昭和35年卒)
同窓会だより、楽しく読ませて頂いております。恩師探訪で、浅見先生が載っていたので、大層懐かしく、当時の授業を思い返し、思わず笑みがこぼれてしまいました。

山口 勇 (昭和39年卒)
63才になり、今も現役で仕事をしています。船高の前を車で通るたびに、当時の学生時代を思い出し、いい4年間を過ごしてきた、人生の励みとなって居ます。

筒井 英雄 (昭和56年卒)
船高野球部OBとして一言。私の時代は小銃銃種でしたが、今は本気で甲子園を狙えると思います。市船に負けるな!!

島倉 未知子 (昭和49年卒)
芸術で書道を選択したときに、浅見先生に教わりました。そのころ作った石 (?) の落款 (?) を、今でも宝飾に押ししています。毎年当分の前に使っていました。このたび浅見先生の記事を読み、改めて、感謝の気持ちをもちました。

奥 永俊哉 (昭和58年卒)
卒業してはや25年。中年そのものの世代に入り、家庭に会社に慌たしい日々を送っています。ロッテの早川選手の活躍に高校時代の運動部仲間が集い、大いに語り合う機会を持つ様になりました。早川選手、そして船高野球部でプロ選手のバイオニアである日野茂樹に感謝です。

岡崎 利英 (昭和32年卒)
卒業してから50年が経過しました。3年間のテニスの部活、受験勉強など懐かしく思い出しています。現在もテニス、登山など人生を大いに楽しんでいます。

古閑 比斗志 (昭和54年卒)
外国から戻ると船高はほとんど変わわり、浦島太郎を感ずる今日この頃です。古池ブルブルも屋根付きブルブルに変わってブルブル除のヤゴが懐かしい限りです。

高中 亘 (昭和29年卒)
29年に卒業し、気が付いて見たら53年の年月が経ち、半世紀を過ぎました。

米山 美和子 (昭和58年卒)
昨年申すの娘と共に母校の文化祭に行つて来ました。まず驚いたのが校庭がすっかり様変わりした事。しかし、校舎、食堂、体育館などは、昔のままでも懐かしかったです。教室には冷房が入り、ずいぶん快適になっています。娘に見せるつもりが母の方が懐かしさで、はしゃいで夢中になってしまった1日でした。

丸山 典子 (昭和50年卒)
同窓会だよりを楽しく懐かしく拝見しております。「母校はいま」により現船高生の姿を垣間見て「おしやれ・勉学の両立」を嬉しく思いました。不易流行の船高、単位制に移行しても伝統的なその精神は保ち続けてほしいものです。

田中 宏道 (昭和55年卒)
学習塾を経営し、教員をたくさん母校に入ればよいと奮闘しております。現在17名の教え子が母校の生徒として学んでおります。母校には、リーダーシップを発揮し人を幸せにするような教育を期待しております。

村田 正行 (昭和33年卒)
4年前から (独) 国立高等専門学校機構の知的財産アドバイザーを委嘱されています。船高卒業から50年、古希を迎えますが、もう少し現役でがんばります。

山浦 紀子 (平成4年卒)
昨年の会報で、当時のパレーボール部仲間が船高の先生になり、顧問になつていとう事実を知り、嬉しく本人に久びさにお手紙を書きました。メールもない時代だったので卒業と同時に連絡が取れなくなった友人も多々。こういった会報で近況を知ることができ、嬉しんでいます。

長濱 由美子
千葉ロッテの早川選手の活躍をみて、母校を思い出します。

高藤 賢世子 (昭和35年卒)
同窓会だより、楽しく読ませて頂いております。恩師探訪で、浅見先生が載っていたので、大層懐かしく、当時の授業を思い返し、思わず笑みがこぼれてしまいました。

山口 勇 (昭和39年卒)
63才になり、今も現役で仕事をしています。船高の前を車で通るたびに、当時の学生時代を思い出し、いい4年間を過ごしてきた、人生の励みとなって居ます。

筒井 英雄 (昭和56年卒)
船高野球部OBとして一言。私の時代は小銃銃種でしたが、今は本気で甲子園を狙えると思います。市船に負けるな!!

島倉 未知子 (昭和49年卒)
芸術で書道を選択したときに、浅見先生に教わりました。そのころ作った石 (?) の落款 (?) を、今でも宝飾に押ししています。毎年当分の前に使っていました。このたび浅見先生の記事を読み、改めて、感謝の気持ちをもちました。

奥 永俊哉 (昭和58年卒)
卒業してはや25年。中年そのものの世代に入り、家庭に会社に慌たしい日々を送っています。ロッテの早川選手の活躍に高校時代の運動部仲間が集い、大いに語り合う機会を持つ様になりました。早川選手、そして船高野球部でプロ選手のバイオニアである日野茂樹に感謝です。

岡崎 利英 (昭和32年卒)
卒業してから50年が経過しました。3年間のテニスの部活、受験勉強など懐かしく思い出しています。現在もテニス、登山など人生を大いに楽しんでいます。

古閑 比斗志 (昭和54年卒)
外国から戻ると船高はほとんど変わわり、浦島太郎を感ずる今日この頃です。古池ブルブルも屋根付きブルブルに変わってブルブル除のヤゴが懐かしい限りです。

高中 亘 (昭和29年卒)
29年に卒業し、気が付いて見たら53年の年月が経ち、半世紀を過ぎました。

米山 美和子 (昭和58年卒)
昨年申すの娘と共に母校の文化祭に行つて来ました。まず驚いたのが校庭がすっかり様変わりした事。しかし、校舎、食堂、体育館などは、昔のままでも懐かしかったです。教室には冷房が入り、ずいぶん快適になっています。娘に見せるつもりが母の方が懐かしさで、はしゃいで夢中になってしまった1日でした。

丸山 典子 (昭和50年卒)
同窓会だよりを楽しく懐かしく拝見しております。「母校はいま」により現船高生の姿を垣間見て「おしやれ・勉学の両立」を嬉しく思いました。不易流行の船高、単位制に移行しても伝統的なその精神は保ち続けてほしいものです。

田中 宏道 (昭和55年卒)
学習塾を経営し、教員をたくさん母校に入ればよいと奮闘しております。現在17名の教え子が母校の生徒として学んでおります。母校には、リーダーシップを発揮し人を幸せにするような教育を期待しております。

村田 正行 (昭和33年卒)
4年前から (独) 国立高等専門学校機構の知的財産アドバイザーを委嘱されています。船高卒業から50年、古希を迎えますが、もう少し現役でがんばります。

編集後記

・8月9日、昭和48年卒の同期会開催。
第2回目、夏の真つ盛り、にも関わらず、前回以上の参加者に加えて、藤田先生 (恩師探訪お読みください)、沢井先生、大木先生にも出席いただきました。80周年同窓会名簿の住所を頼りに同期探訪から始め、時に迷走しながらも、何より良き友に恵まれ、4年に一度は定着しようです。

・今年も選層同窓生の力の結実、春の同窓会の準備が着々と進んでいます。毎年お手伝いさせて頂いたのですが、年ごとに学年カラーは異なるもの、どの学年も、先輩方のパワフルさ、学年のまとまり、母校への想いは強烈で、圧倒されています。今年も2月11日が楽しみです。

・創立80周年版名簿と同窓会だよりの編集だけという先輩の気楽なお勧めに、気楽に応じ、事務局のお手伝いを始めて11年。そろそろ紙面刷新、世代交代と思いつつ。
(昭和48年卒・S)



◎同窓会だよりへ原稿をお待ちしています。結果報告等々同窓会事務局へ原稿と写真を郵送してください。編集会議を9月に行いますので、8月末日を締め切りとさせていただきます。なお、卒業年、担当者氏名、電話番号を記載願います。お送りいただいた原稿と写真は紙面に合わせて担当者の方と調整させていただきます。

◎同窓会では事務局機能を充実するため、同窓会の運営スタッフを求めたいです。活動は、春の同窓会のお手伝い、理事会、総会の運営、同窓会だよりの発行といったことですが、同窓会には皆さんの力を集めて運営していきますので、興味のある方は同窓会事務局へお手紙かメールでお問い合わせください。